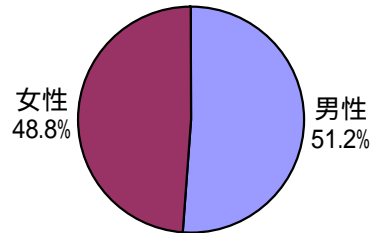


## 「男女共同参画社会の実現」についてのアンケート集計結果

調査時期：平成21年11月  
 対象者：県政モニター 195人  
 回答数：168人（回収率 86.2%）  
 担当課：県民文化生活部男女共同参画課  
 調査目的：県では、男女の性別にとらわれず、女性も男性もそれぞれの個性や能力を発揮し、社会の様々な場に、単に参加するだけでなく、主体的かつ積極的にかかわっていくことができる社会～男女共同参画社会～の実現に向けた各種施策を実施しています。今回、それらの施策を効果的に進めていくための基礎資料を得ることを目的として、アンケート調査を実施しました。

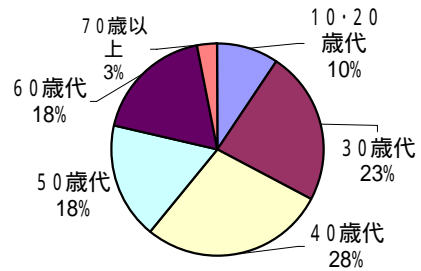
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
男性	86	51.2%
女性	82	48.8%
合計	168	100.0%



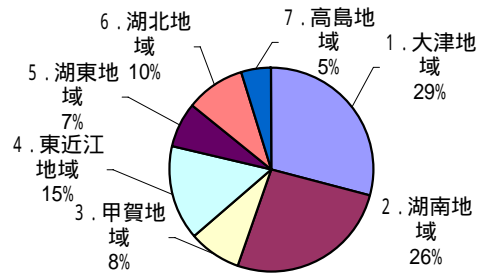
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	16	9.5%
30歳代	39	23.2%
40歳代	47	28.0%
50歳代	30	17.9%
60歳代	31	18.5%
70歳以上	5	3.0%
合計	168	100.0%



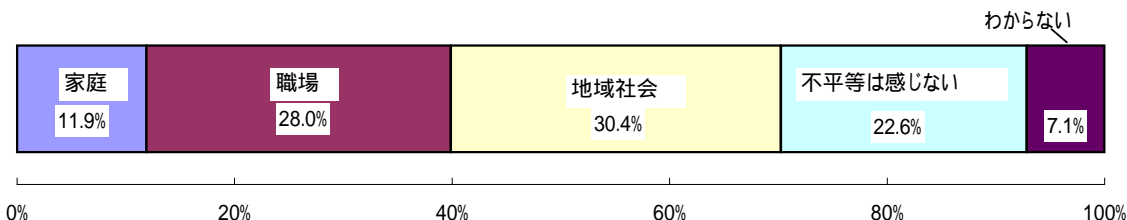
問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 大津地域	49	29.2%
2. 湖南地域	44	26.2%
3. 甲賀地域	14	8.3%
4. 東近江地域	25	14.9%
5. 湖東地域	12	7.1%
6. 湖北地域	16	9.5%
7. 高島地域	8	4.8%
合計	168	100.0%



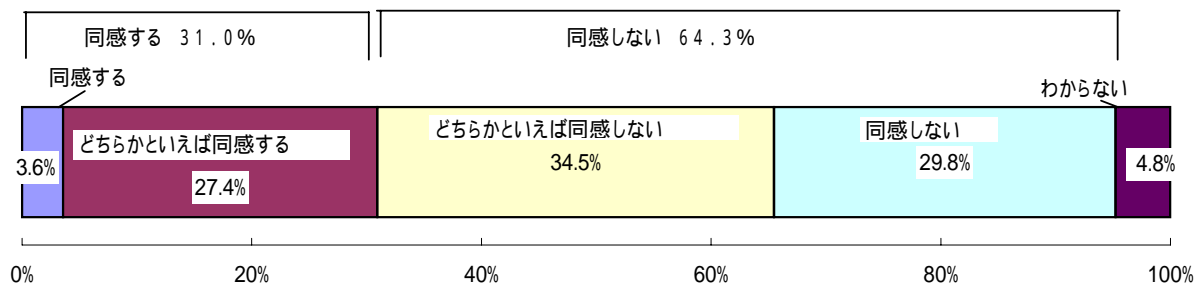
問4 日常生活の中でご自身の実感として、男女の不平等を一番感じる場所はどこですか。（はひとつだけ）

項目	人数(人)	割合(%)
1. 家庭	20	11.9%
2. 職場	47	28.0%
3. 地域社会	51	30.4%
4. 不平等は感じない	38	22.6%
5. わからない	12	7.1%
合計	168	100.0%



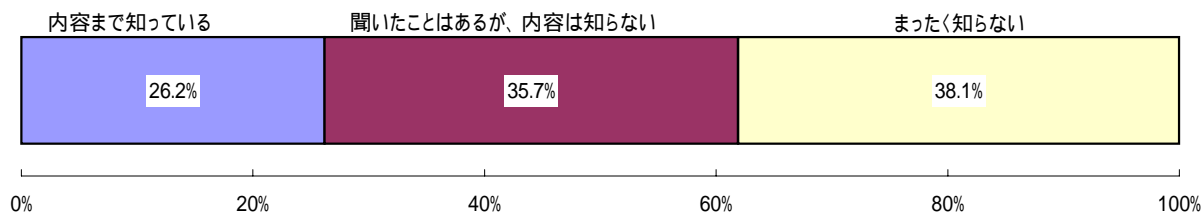
問5 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたの考え方に最も近いものを1つ選んでください。

項目	人数(人)	割合(%)
1. 同感する	6	3.6%
2. どちらかといえば同感する	46	27.4%
3. どちらかといえば同感しない	58	34.5%
4. 同感しない	50	29.8%
5. わからない	8	4.8%
合計	168	100.0%



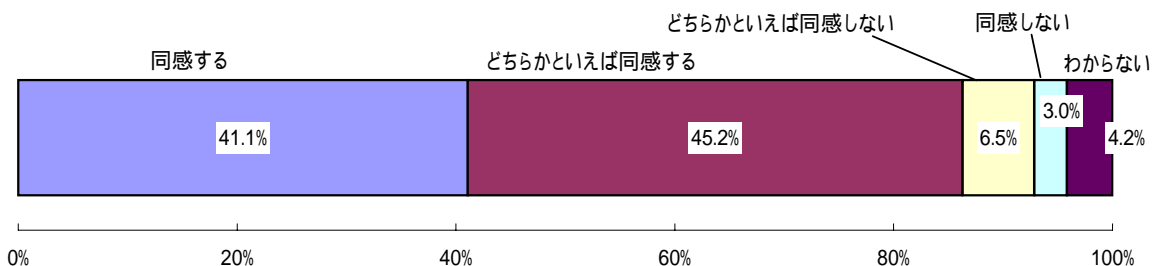
問6 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉をご存じですか。( はひとつだけ)

項目	全体(人)	割合
1. 内容まで知っている	44	26.2%
2. 聞いたことはあるが、内容は知らない	60	35.7%
3. まったく知らない	64	38.1%
合計	168	100.0%



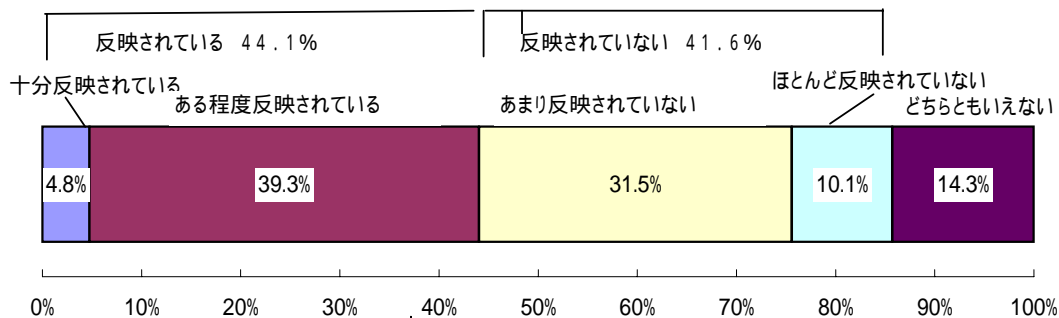
問7 多様な働き方が選択でき、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)がとれるという考え方について、あなたの考え方に最も近いものを1つだけ選んでください。( は1つだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 同感する	69	41.1%
2. どちらかといえば同感する	76	45.2%
3. どちらかといえば同感しない	11	6.5%
4. 同感しない	5	3.0%
5. わからない	7	4.2%
合計	168	100.0%



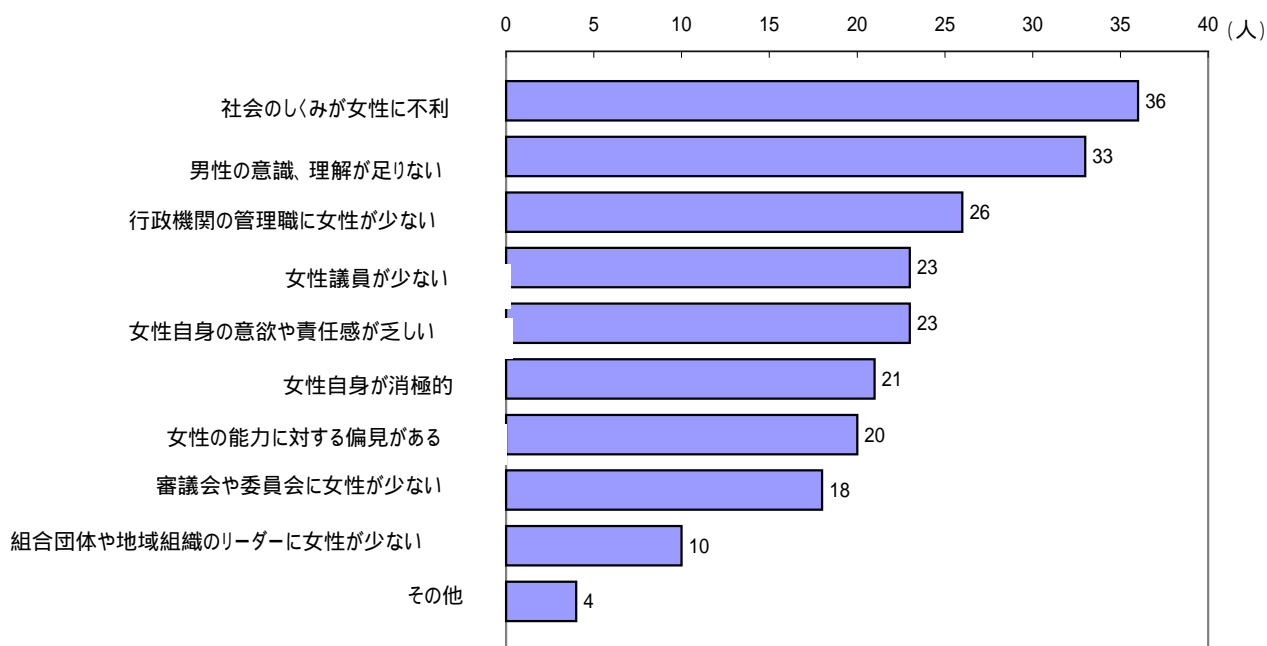
問8 あなたは、地方自治体(県や市町)などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度反映されていると思いますか。( はひとつだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 十分反映されている	8	4.8%
2. ある程度反映されている	66	39.3%
3. あまり反映されていない	53	31.5%
4. ほとんど反映されていない	17	10.1%
5. どちらともいえない	24	14.3%
合計	168	100.0%



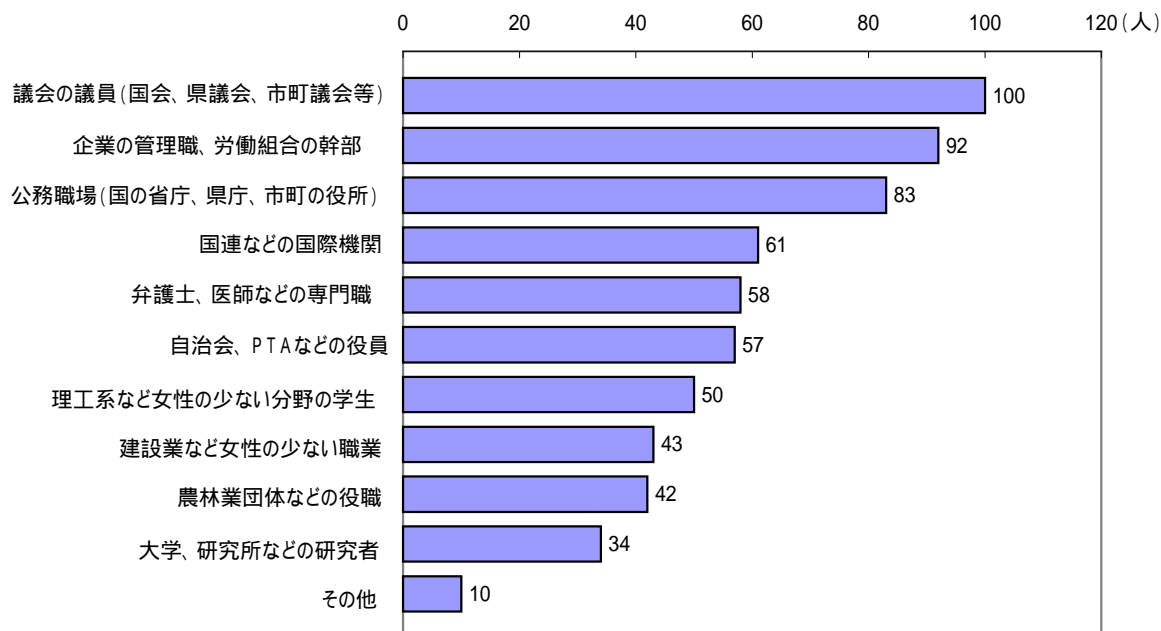
問8 - 1 問8で「3. あまり反映されていない」または「4. ほとんど反映されていない」と回答された方にお聞きます。反映されていないと感じた理由は何だと思われますか。( は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 女性議員が少ない	23	13.7%
2. 行政機関の管理職に女性が少ない	26	15.5%
3. 審議会や委員会に女性が少ない	18	10.7%
4. 組合団体や地域組織のリーダーに女性が少ない	10	6.0%
5. 女性自身の意欲や責任感が乏しい	23	13.7%
6. 女性自身が消極的	21	12.5%
7. 男性の意識、理解が足りない	33	19.6%
8. 社会のしきみが女性に不利	36	21.4%
9. 女性の能力に対する偏見がある	20	11.9%
10. その他	4	2.4%



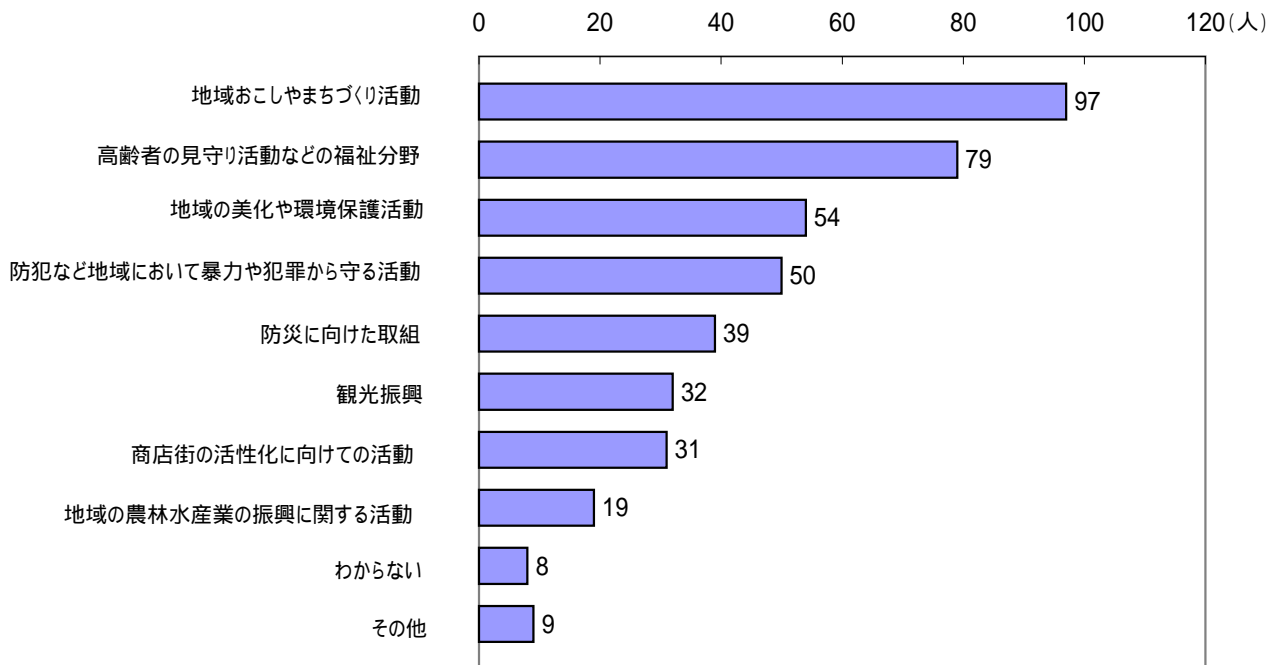
問9 あなたは、今後どのような分野で特に女性の参画が進むべきだと思いますか。(はいくつでも)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 議会の議員(国会、県議会、市町議会等)	100	59.5%
2. 公務職場(国の省庁、県庁、市町の役所)	83	49.4%
3. 弁護士、医師などの専門職	58	34.5%
4. 自治会、PTAなどの役員	57	33.9%
5. 企業の管理職、労働組合の幹部	92	54.8%
6. 国連などの国際機関	61	36.3%
7. 建設業などの女性の少ない職業	43	25.6%
8. 理工系など女性の少ない分野の学生	50	29.8%
9. 大学、研究所など研究者	34	20.2%
10. 農林業団体などの役職	42	25.0%
11. その他	10	6.0%



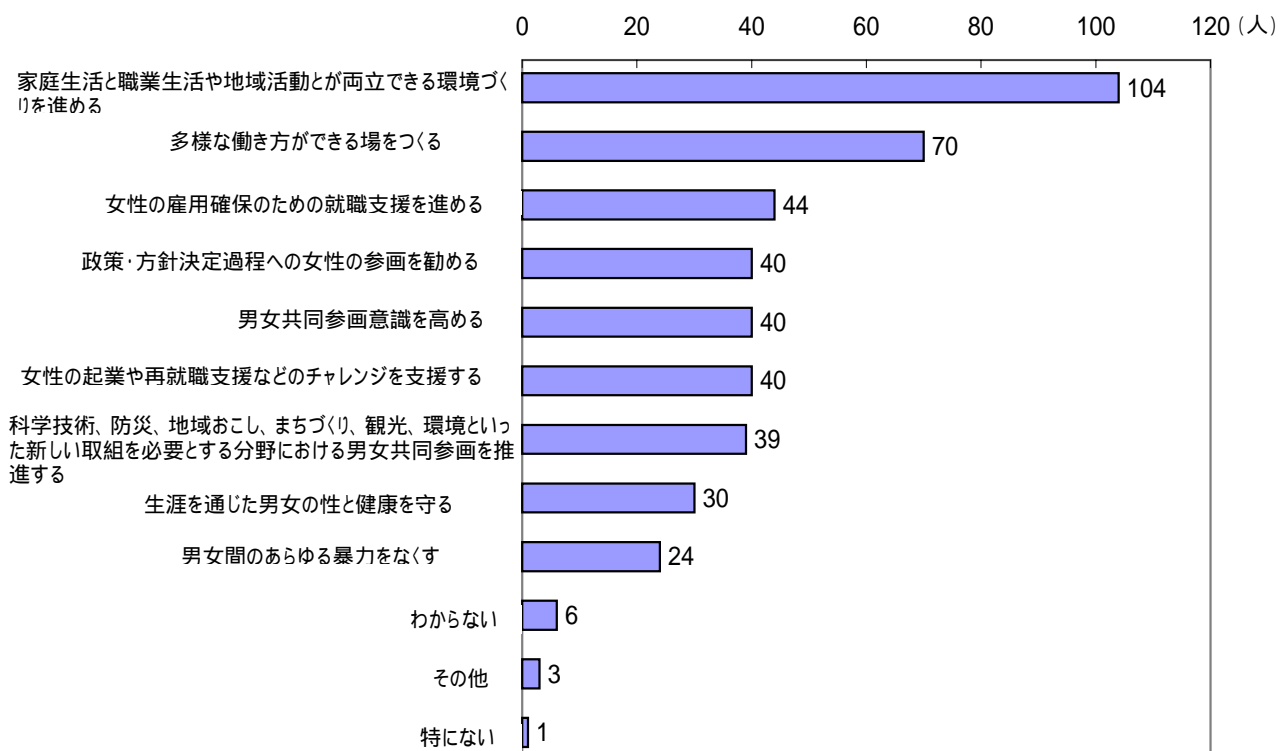
問10 地域における活動分野の中で、これからますます男女共同参画の視点が必要になるとと思われる活動は、どのようなことだと思いますか。(は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 地域おこしやまちづくり活動	97	57.7%
2. 防災に向けた取組	39	23.2%
3. 地域の美化や環境保護活動	54	32.1%
4. 防犯など地域において暴力や犯罪から守る活動	50	29.8%
5. 観光振興	32	19.0%
6. 地域の農林水産業の振興に関する活動	19	11.3%
7. 商店街の活性化に向けての活動	31	18.5%
8. 高齢者の見守り活動などの福祉分野	79	47.0%
9. わからない	8	4.8%
10. その他	9	5.4%



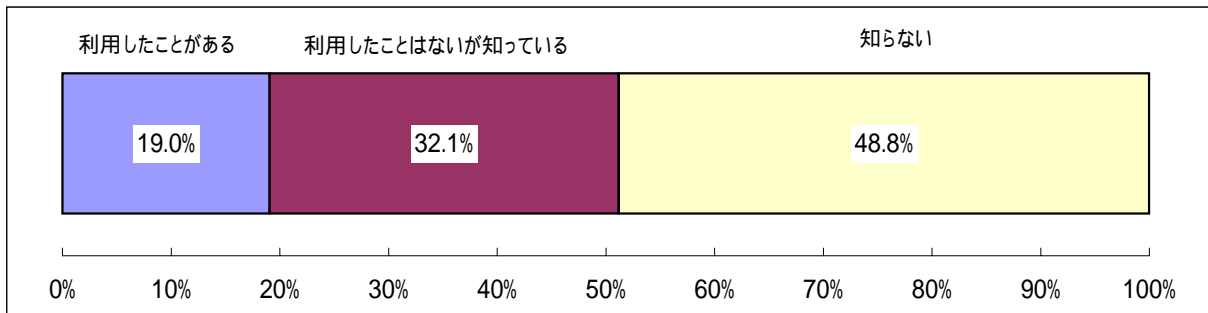
問11 男女共同参画社会の実現に向けて、県では今後どのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。  
( は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 政策・方針決定過程への女性の参画を進める	40	23.8%
2. 男女共同参画意識を高める	40	23.8%
3. 生涯を通じた男女の性と健康を守る	30	17.9%
4. 男女間のあらゆる暴力をなくす	24	14.3%
5. 家庭生活と職業生活や地域活動とが両立できる環境づくりを進める	104	61.9%
6. 多様な働き方ができる場をつくる	70	41.7%
7. 女性の起業や再就職支援などのチャレンジを支援する	40	23.8%
8. 科学技術、防災、地域おこし、まちづくり、観光、環境といった新しい取組を必要とする分野における男女共同参画を推進する	39	23.2%
9. 女性の雇用確保のための就職支援を進める	44	26.2%
10. 特にない	1	0.6%
11. わからない	6	3.6%
12. その他	3	1.8%



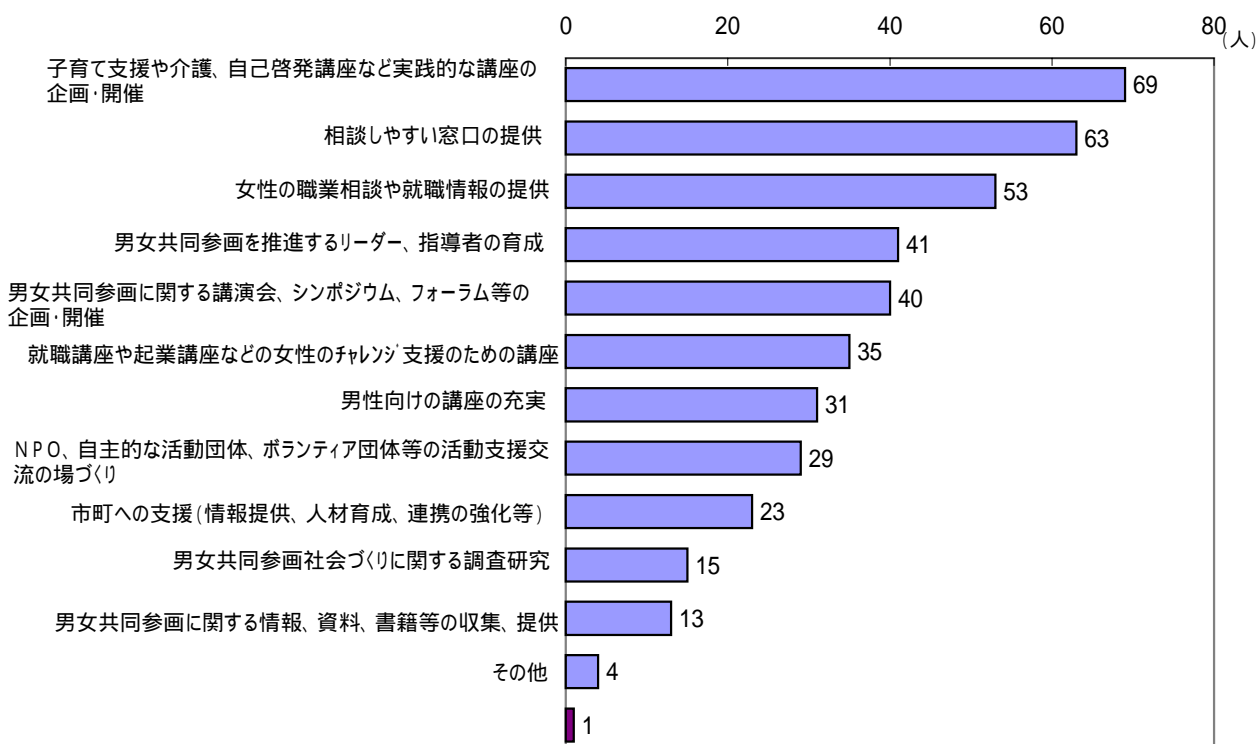
問12 県には現在、男女共同参画センター(G-NETしが)(所在地:近江八幡市)という男女共同参画のための拠点施設があります。あなたはこの施設をご存じですか。( はひとつだけ)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 利用したことがある	32	19.0%
2. 利用したことはないが知っている	54	32.1%
3. 知らない	82	48.8%
合計	168	100.0%



問13 あなたは今後、男女共同参画センター(G-NETしが)に男女共同参画の拠点施設としてどのような役割を期待されますか。( は3つまで)

項目	人数(人)	割合(%)
1. 男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画・開催	40	23.8%
2. 子育て支援や介護、自己啓発講座など実践的な講座の企画・開催	69	41.1%
3. 男女共同参画を推進するリーダー、指導者の育成	41	24.4%
4. 男女共同参画に関する情報、資料、書籍等の収集、提供	13	7.7%
5. 相談しやすい窓口の提供	63	37.5%
6. 男性向け講座の充実	31	18.5%
7. NPO、自主的な活動団体、ボランティア団体等の活動支援・交流の場づくり	29	17.3%
8. 就職講座や起業講座などの女性のチャレンジ支援のための講座	35	20.8%
9. 女性の職業相談や就職情報の提供	53	31.5%
10. 男女共同参画社会づくりに関する調査研究	15	8.9%
11. 市町への支援(情報提供、人材育成、連携の強化等)	23	13.7%
12. その他	4	2.4%



問14 男女共同参画社会を実現していくための、あなたのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

【主な意見】

- ・女性が安心して、社会に出るためには、保育所や託児所がもっと必要。
- ・管理職レベルの女性が非常に少なく、女性にとって長く働ける環境にない。女性に理解のある職場環境が増えていくことが必要。
- ・職場や家庭では「女性だから」と言われることは少なくなっているが、地域の行事等では男女差別がまだまだある。
- ・女性が元気な地域が増えてほしい。
- ・男性の意識改革が必要。男性向けのシンポジウムなどの啓発活動。
- ・自治会の役員をしているが(女性)、まだまだめずらしがられる。自律した人間が共生し、ともに活躍する社会が実現することを願う。
- ・女性が仕事と家庭を両立していくためには、夫の理解が必要。
- ・中小企業では、男女の賃金格差、仕事内容の格差が大きい。
- ・民間企業においては、一般職の名のもとに女性の働き方が画一化されているのが現状。自治体が指導するしくみが必要。
- ・女性のリーダーシップの醸成が急務。女性リーダー育成プログラム企画を期待。
- ・社会・家庭を丸くするうえでの役割分担は必要。
- ・シンポジウムや講演は参考にはなるが、一般論になりがちなので、雇用や子育てなどの直接の手助けが必要では。
- ・男女共同参画の考え方を子どもたちに伝え、自分の生きる道が何かしっかり考えて人生を選択できる社会にしていきたい。
- ・何もかも男女で差がないことが男女平等だとは思わない。男女の違いを踏まえた上で、尊重しつつ特性を理解したうえで成り立つもの。
- ・女性が積極的に社会に出るには、本人の経済的基盤を自身の稼ぎでまかなえるレベルの賃金水準が必要。
- ・私(男性)は、家事や子育てを仕事をする傍ら、積極的に行っている。その際、仕事を早く切り上げたり、必要なときに休んだりすることができる職場であることが大切だが、育児休暇などの制度面を充実させるだけでは不十分で、管理職やトップが範を示す必要がある。
- ・女性が社会進出するための「男女共同参画社会」からさらに視点を広げて、性別や年齢、障碍の有無、学歴、家庭環境に関係なく、それぞれが望む方向に社会参画できる道筋(具体的な施策)をつくるための視点をもつことが大事。
- ・女性にも、責任と自覚が必要な面がある。
- ・男女の性差は厳然としてあり、その内容を認めずに同権的な議論を展開していくことは避けるべき。
- ・男女共同参画を実現するには意識改革が必要、もっとPRやシンポジウムを積極的にすべき。
- ・「男女共同参画社会を実現していく」とは正しい方向性として、認知、確定されたものか。これが実現すると、どんな社会が実現するのか。行政(県)が取り組むことか。
- ・男女共同参画の意識向上には国の施策や法の整備も大切だが、もっと大事なことはまず家庭と自分が住んでいる地域から実践すること。